

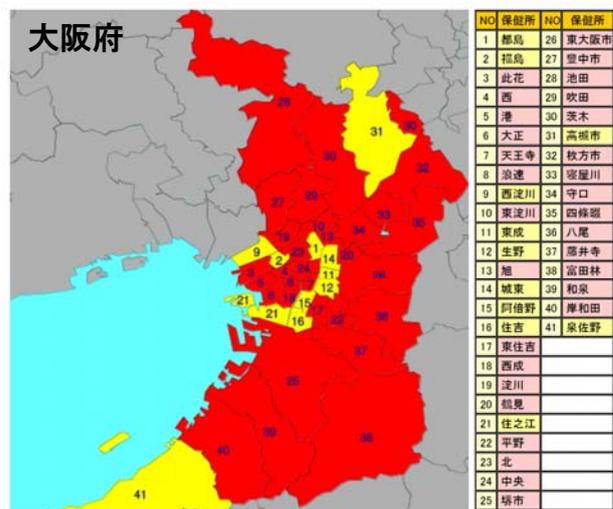
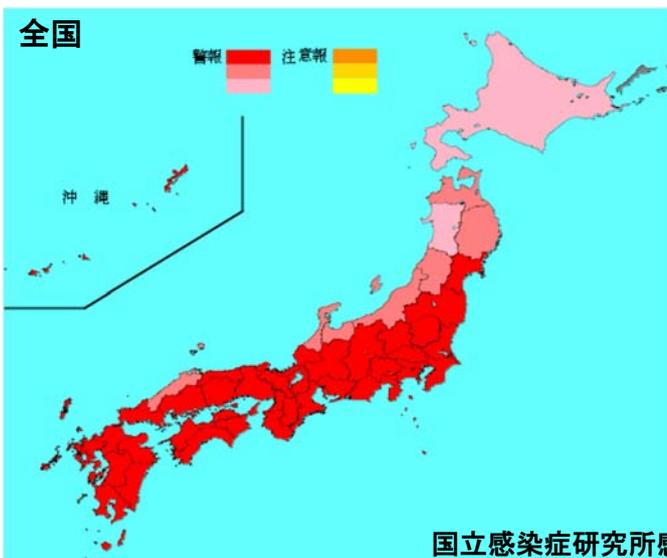


## インフルエンザ、全国的に警報レベル

感染制御部

インフルエンザが全国的に猛威を振っています。2018年第3週(1月15日～1月21日)の定点当たり報告数は51.93と前週に比べて約2倍に増加し、警報レベルの目安とされる30を大幅に上回りました。全国の患者数は1月21日時点で約300万人に上ると推計され、今後も増加することが予想されています。インフルエンザウイルスのタイプ別では、AH1pdm09(いわゆる新型インフルエンザ)、B型の検出割合がほぼ同程度、次いでAH3型が検出されています。

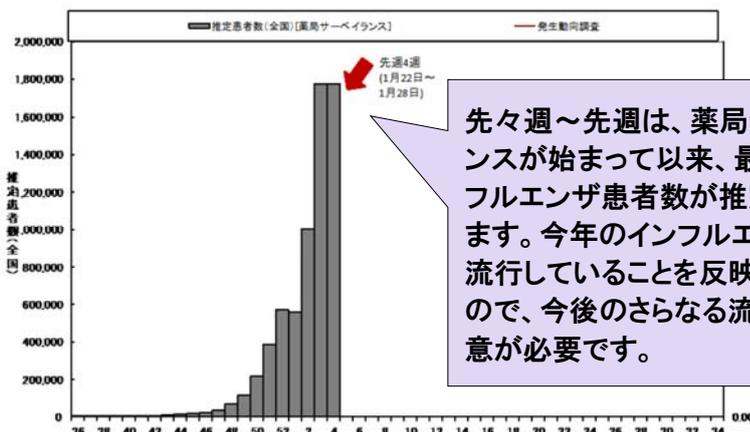
大阪府でもインフルエンザは大流行しており、定点当たり報告数は44.2と警報レベルを超え、42保健所の内、11保健所が注意報、30の保健所が警報を発令しています(図)。



国立感染症研究所感染症疫学センター インフルエンザ流行レベルマップ

社会的な流行を受けて、**当院でも患者・職員を問わずインフルエンザの発生報告が連日増加**しています。

インフルエンザワクチンの予防効果はそれほど高くありません。**体調不良・発熱がある場合、早めに上司に報告し、インフルエンザ検査が陰性でも速やかに職場を離れてください。**また、普段からの**手指衛生とマスク着用**が重要な感染対策になりますので、これまで以上に意識して行ってください。



先々週～先週は、薬局サーベイランスが始まって以来、最多のインフルエンザ患者数が推定されています。今年のインフルエンザが大流行していることを反映しているもので、今後のさらなる流行にも注意が必要です。

